



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	平成 25 年度 JICA 地域別研修「母子保健（伝語）(A)」コースの実践報告 研修生へのアンケート調査およびアクションプランの内容から
Author(s)	正岡, 経子; 林, 佳子; 大日向, 輝美
Citation	札幌保健科学雑誌, 第 3 号: 71-77
Issue Date	2014 年 3 月
DOI	10.15114/sjhs.3.71
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6798">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6798</a>
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X371.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報告

## 平成25年度JICA地域別研修「母子保健（仏語）（A）」コースの実践報告 —研修生へのアンケート調査およびアクションプランの内容から—

正岡経子<sup>1)</sup>、林 佳子<sup>2)</sup>、大日向輝美<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 札幌医科大学保健医療学部看護学科

<sup>2)</sup> 札幌医科大学助産学専攻科

本稿の目的は、本学で実施した平成25年度JICA地域別研修「母子保健（仏語）（A）」の評価から今後の課題を明らかにすることである。評価は研修生へのアンケートと研修生が作成したアクションプランの分析から行った。アンケートの結果、ほぼ全ての研修内容について「非常に役に立つ」「まあまあ役に立つ」との回答を得た。自由記述の分析では【母子保健に関する新しい知識と方法】【助産師の活動範囲とケア方法に関する知見】【技術演習の内容と指導方法】【実習計画の作成と指導体制】【卒後教育とスタッフ管理】【看護職の役割および責任】【障害児に対するチーム支援の有益性】【教育およびケア環境の整備】【医療安全】の9カテゴリーが抽出され、研修生が自国での活動に貢献する知識や技術を得ていたことが明らかになった。また、アクションプランでは研修で扱った感染予防や技術教育がテーマにあげられ、研修生の関心に対応したプログラムであったことが示唆された。

キーワード：母子保健、アフリカ、JICA、地域別研修、研修プログラム

### Report on JICA Training Maternal and Child Health (French, A) according to a trainee questionnaire and action plan Keiko MASAOKA<sup>1)</sup>, Yoshiko HAYASHI<sup>2)</sup>, Terumi OHINATA<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

<sup>2)</sup> Graduate course in midwifery, Sapporo Medical University

The purpose of this paper was to identify future tasks based on the evaluation of JICA Training, Maternal and Child Health for French-speaking countries in Africa, carried out at this school during 2013. The evaluation was performed using a questionnaire given to trainees and an analysis of the action plan they developed. The trainees considered almost all training content to be either "very helpful" or "somewhat helpful." Nine categories were abstracted from the analysis of the free answers: "New information and methods regarding Maternal and Child Health," "Knowledge of the range of activity and care methods of midwives," "Contents of skill practice and guidance methods" "Creation of the practice plan and guidance system," "Management of postgraduate education and staff," "Roles and responsibilities in nursing," "Usefulness of team assistance of handicapped children," and "Medical treatment safety." As shown in our results, the trainees could gain knowledge and skills that would contribute to their activities in their own countries. Furthermore, regarding the action plan, activities to prevent disease, and skill education addressed in the training, the program appeared to satisfy the interests of the trainees as shown by the themes they raised.

Key words : Maternal and Child Health, Africa, JICA, Training by Region, Training program

Sapporo J. Health Sci. 3:71-77(2014)

## I. はじめに

本学保健医療学部は、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）が行っている仏語圏アフリカ地域を対象とした研修委託機関として2007年度より研修生を受け入れてきた。本研修には毎年7～9名の研修生が参加しており、この7年間の受け入れ人数は、累計12カ国58名となっている。本研修の目的は、発展途上国における保健医療従事者の人材不足および保健医療サービスの質の低下を改善するために、アフリカの看護師および助産師に対し、母子保健に関する適切な教育・研修が提供できるよう教育機関の講師陣の能力強化を図ることである。今年度は、5カ国から8名の研修生を受け入れ40日間の技術研修を実施した。本稿では、研修生を対象に行ったアンケートおよび研修生が発表したアクションプランから明らかになった平成25年度の研修評価および次年度の課題について報告する。

## II. 母子保健（仏語）(A) コースの研修の概要

### 1. 研修の到達目標

以下の5つの到達目標を設定している。

- 1) 日本における母子保健の実態と母子保健医療サービスの現状と課題について理解する。
- 2) 日本における看護教育制度とその動向について理解する。
- 3) 母子保健サービスに関わる保健師、助産師教育のカリキュラムとその展開について理解する。
- 4) 看護職の卒後教育と母子保健関連の卒後教育について理解する。
- 5) 日本の母子保健および人材育成の経験をふまえ、自国での適用性を考慮し、アクションプランを提言する。

### 2. 研修生の概要

本年度の研修生は8名で、女性7名、男性1名であった。研修生の背景は表1の通りである。

### 3. 研修期間

平成25年9月24日～11月9日

### 4. 研修プログラム

#### 1) 来日～技術研修開始前まで

研修生は、来日後の約1週間で日本の政治・行政、経済、教育に関するジェネラルオリエンテーション、生活上の諸注意の他、研修内容についてのオリエンテーションをJICAの担当者より受けた。

#### 2) 技術研修プログラム

研修プログラムの詳細は、表2の通りである。今年度の研修プログラムは、到達目標をふまえ「日本の看護師・保健師・助産師の教育内容および教育環境を知ること」と「日本の保健医療機関で行われている看護職のケア、サービスおよび施設・設備を知ること」の観点から本学の研修担当者が内容を検討した。特に今年度は、これまでの研修生の要望と今年度の研修生の属性を考慮し、看護・助産技術演習や乳児健診の見学など帰国後看護および助産活動に直接反映できる研修内容を取り入れた。

#### 3) 技術研修終了後

研修生は、帰国後4ヵ月以内に所属機関メンバーと研修成果について共有し、アクションプランの進行状況について報告することが義務づけられている。

## III. 研修内容に関する評価方法

### 1. 評価に用いたデータ

今年度の研修内容を評価するために、以下の2つのデータを用いた。

- 1) 本学のJICA担当者が作成したアンケート：質問項目

表1 平成25年度研修生の概要

	出身国	現職	研修で学びたい事項
1	コートジボアール共和国	大学附属病院の助産師	助産師と看護師の能力強化の為の新しい教育システム。母子感染予防プログラムおよびHIV及びAIDSの母子の医学的・心理的ケアについて。
2	コンゴ民主共和国	高等医療技術機関助産学科の教員	日本の母子健康維持システムとサービスについて。助産師教育および研修システムの理解。
3	コンゴ民主共和国	産科病院の分娩室助産師長	入院中および退院後の母子ケア 母子保健サービス実施における能力強化の方法。
4	ギニア共和国	産科医師長	マタニティーサービスの責任者として妊産婦ケアのあり方。
5	モーリタニア・イスラム共和国	国立看護師・助産師学校の教員	日本の母子保健サービスについて。 助産師および看護師に対する教授方法。
6	モーリタニア・イスラム共和国	国立看護師・助産師学校の教員	新人研修、パラメディカル現職研修を改善するための知識。
7	ニジェール共和国	市立病院の看護師	母子保健サービスと質の高い管理について。日本の母子保健制度と地域における発展についての理解。
8	ニジェール共和国	市保健部・母子保健主任	看護師と助産師の母子保健分野の能力向上のための継続研修について。

表2 平成25年度地域別研修「母子保健（フランス語A）」プログラム（技術研修期間のみ）

日付	時刻	形態	研修内容
9/30(月)	9:00 ~ 9:40	講義	オリエンテーション
	10:00 ~ 12:00	講義	日本の看護教育制度と看護学教育カリキュラムの概要
	13:30 ~ 14:00	懇談	学長表敬訪問
	14:30 ~ 16:00	見学	学内見学
10/1(火)	9:30 ~ 11:00	講義	実習指導方法
	13:30 ~ 15:00	講義	日本の看護の歴史
	15:30 ~ 16:30	講義	日本の産科・婦人科医療の動向
10/2(水)	9:30 ~ 11:00	講義	日本の保健師養成と地域看護教育
	13:10 ~ 14:40	発表会	カントリーレポート発表会
	15:00 ~ 17:00	自習	カントリーレポートディスカッション
	17:00 ~	懇談	科内会議挨拶
10/3(木)	9:30 ~ 11:30	講義	看護技術教育の実際
	12:20 ~ 12:50	懇談	学部長懇談
	14:10 ~ 16:00	講義	日本における助産師の歴史と役割
10/4(金)	AM	講義	アクションプランに関する説明会
	PM	自習	自己学習
10/7(月)	9:00 ~ 11:30	講義	助産学専攻科カリキュラムの概要
	13:00 ~ 16:20	演習	助産技術演習の見学・助産活動に関する学生とのディスカッション
10/8(火)	9:30 ~ 10:10	講義	母性看護学カリキュラムの概要
	10:20 ~ 12:00	演習	助産技術教育の実際
	13:30 ~ 16:30	講義	新生児蘇生法の基本
10/9(水)	9:30 ~ 11:30	講義	小児看護学カリキュラムの概要
	12:30 ~ 13:10	交流会	研修生・教職員との交流
	14:00 ~ 15:00	講義	日本における小児医療の動向と乳幼児に多い感染症とその対策
	15:30 ~	懇談	教授会挨拶
10/10(木)	10:00 ~ 11:00	見学	大学病院見学
	13:30 ~ 15:00	講義	病院の感染対策：産産期に多い感染症に焦点を当てて
	15:15 ~ 16:30	演習	手洗いの演習
10/11(金)	9:30 ~ 12:00	演習	助産師が行う命の教育
	13:30 ~ 15:30	演習	助産師が行う命の教育
10/15(火)	9:30 ~ 11:30	講義	市の母子保健施策について
	13:30 ~ 15:30	見学	大学病院訪問（産科周産期科・小児科） ※2グループに分かれて見学
10/16(水)	9:30 ~ 12:00	講義	日本・北海道の看護職能団体・卒後教育研修
	13:30 ~ 15:30	見学	大学病院訪問（産科周産期科・小児科） ※2グループに分かれて見学
	9:30 ~ 11:30	自習	自己学習
10/17(木)	13:30 ~ 14:30	講義	日本女性の心身の健康と治療
	14:30 ~ 15:30	講義	産科専門施設における医師と助産師の連携
	15:30 ~ 16:00	見学	病院見学
10/18(金)	10:00 ~ 13:00	演習	PCM研修①-PCM手法理解
	14:00 ~ 17:00	演習	PCM研修②-問題分析
10/19(土)	9:00 ~ 12:00	演習	PCM研修③-目標設定
	13:00 ~ 16:00	演習	PCM研修④-プロジェクト立案
10/21(月)	9:30 ~ 12:00	講義	日本の助産師が行う性教育の実際
	13:30 ~ 15:00	講義	母子の健康に関する作業療法士の役割と活動の実際
	15:15 ~ 16:30	講義	母子の健康に関する理学療法士の役割と活動の実際
10/22(火)	9:30 ~ 12:00	講義	大学病院における看護管理とスタッフ教育
	13:10 ~ 14:20	見学	基礎看護方法（ベッドパス）演習の見学
	14:30 ~ 16:00	講義	医療安全管理について
10/23(水)	9:00 ~ 10:30	見学	保健所 1歳半健診 視察 ※第1G(4名)
	PM	自習	自己学習
10/24(木)	9:30 ~ 11:30	講義	5S-KAIZENセミナー①
	PM	自習	自己学習
10/25(金)	9:00 ~ 10:30	見学	保健所 4ヵ月健診 視察 ※第2G(4名)
	14:00 ~ 15:30	見学	カンファレンス
	16:00 ~ 17:00	見学	標本館
10/28(月)	10:00 ~ 10:30	見学	総合医療・療育センター訪問 施設説明
	10:30 ~ 11:30	見学	総合医療・療育センター施設見学（2グループに分かれる）
	11:30 ~ 12:00	講義	総合医療・療育センター看護部長からの説明及び質疑応答
	12:00 ~ 13:10	休憩	昼休み
	13:10 ~ 14:00	見学	養護学校訪問 学級訪問
10/29(火)	14:00 ~ 14:15	移動	養護学校訪問 学校紹介・見学
	9:30 ~ 10:30	講義	保健所の役割と母子保健の現状と課題
	10:40 ~ 11:40	講義	根室振興局内保健所における母子保健の活動状況と課題
	12:00 ~ 13:30	休憩	昼食
	13:30 ~ 15:30	講義	根室振興局内町立病院における周産期医療の現状と助産師の役割
	10:00 ~ 10:30	見学	郷土資料館 見学
	10:30 ~ 11:30	見学	乳業興社 見学
	13:00 ~ 17:00	見学	根室振興局内町立病院の活動（産婦人科医師と助産師の連携等）
		見学	助産師の活動の実際
		見学	根室振興局内母子健康センター訪問 施設内見学
10/31(木)	9:00 ~ 11:30	自習	移動（中標津→新千歳）
	14:00 ~ 17:00	講義/演習	自己学習 助産所見学 開業助産師の活動
11/1(金)	9:30 ~ 11:30	講義	カンファレンス 研修旅行のまとめ
	13:30 ~ 16:30	講義	5S-KAIZENセミナー②
11/5(火)		自習	アクションプラン作成準備（自習）
		自習	アクションプラン作成準備（自習）
11/6(水)		自習	アクションプラン作成準備（自習）
	15:30 ~ 16:30	交流会	茶道部
11/7(木)	9:30 ~ 12:30	発表会	アクションプラン最終発表会
	13:30 ~ 16:00	発表会	アクションプラン最終発表会
11/8(金)	14:00 ~ 16:00	評価会	評価会
	16:30 ~ 17:00	閉講式	閉講式
	17:00 ~ 18:00	閉講パーティー	閉講パーティー

は、Ⅰ. 研修内容47項目の自国での活動に対する有益性について「非常に役に立つ」～「全く役に立たない」の5件法で回答を求めたもの、Ⅱ. Ⅰで「あまり役に立たない」、「全く役に立たない」と答えた理由についての自由記載、Ⅲ. 研修内容についての意見・感想についての自由記載で構成されている。アンケートは1週間分の研修終了時に研修生に配布し、その場で回収した。

2) JICAが作成した質問票：研修成果に関する質問項目のうち、研修を通じて学んだ日本の知の中で、自国の課題解決に貢献する知識、技術、技能についての自由記載内容をデータとして用いた。

## 2. 分析方法

各研修内容について5件法で回答を求めた質問項目については単純集計し、自由記載内容については研修を通して印象深かった内容および今後の自国での活動に貢献する知識や技術に関する内容に着目し、その類似性に沿って分類した。分析は複数の研究者で行い、結果の妥当性の確保に努めた。

## 3. 倫理的配慮

研修生には、アンケート結果は研修評価として学内外で公表する予定であること、アンケートは無記名であるため個人が特定されることはないことを口頭および書面で説明し同意を得た。また、JICAが作成した質問票については研修生以外にもJICA北海道の関係者の承諾を得た。

# Ⅳ. 結 果

## 1. 研修内容の自国での活動に対する有益性

研修内容47項目について分析した結果、「2：あまり役に立たない」および「1：全く役に立たない」と回答した研修項目はなかった。殆どの研修内容は「5：非常に役に立つ」および「4：まあまあ役に立つ」と回答されており、47項目の平均点は4.7点であった。また、全員が「5：非常に役に立つ」と回答していた研修内容は、『日本の保健師養成と地域看護教育』、『日本の助産師が行う性教育の実際』、『根室振興局内保健所における母子保健の活動状況と課題』、『根室振興局内町立病院における周産期医療の現状と助産師の役割』および『助産院の見学：開業助産師の活動の実際』であった。

## 2. 研修を通して印象深かった内容および自国での活動に貢献する知識や技術

記述内容を分析した結果、9カテゴリーに分類された。その内容を表3に示す。

### 1) 【母子保健に関する新しい知識と方法】

妊婦健診や乳幼児健診の視察を通して、自国の母子保健活動に取り入れる必要性を実感していた。また、道東の母子保健活動および周産期医療の視察を通して、札幌近郊だけでなく遠隔地方においても医療サービスや看護ケアの基準が維持されていることに関心を示していた。

### 2) 【助産師の活動範囲とケア方法に関する知見】

大学および産科専門病院や助産院の見学、助産師の活動やケア実践の説明、思春期の性教育や命の教育を通して、助産師が担う役割の広さや出産の安心と安全を守る環境づくり、継続ケアや足つぼ（経穴）など具体的な知識を獲得していた。

### 3) 【技術演習の内容と指導方法】

本学の看護および助産技術演習の内容・方法についての説明、技術演習の授業見学などを通して、学内演習を行う重要性を認識していた。

### 4) 【実習計画の作成と指導体制】

助産学専攻科の実習計画や実習施設の見学を通して、実習計画の有用性や学習をサポートする大学と実習施設との連携・協力体制の重要性についてあげられていた。

### 5) 【卒後教育とスタッフ管理】

大学病院における看護・スタッフ管理、および医療安全管理の講義を通して、新人看護師の指導方法やスタッフ管理について有益な知識を得ていた。

### 6) 【看護職の役割および責任】

日本の看護教育制度や助産師の歴史と役割などの講義を通して、看護職の役割の重要性やプロフェッショナルとしての姿勢について再認識していた。

### 7) 【障害児に対するチーム支援の有益性】

総合医療・療育センターや養護学校の視察、母子の健康に関わる理学療法士および作業療法士の活動についての講義を通して、障害児・者に対する支援体制についてあげられていた。

### 8) 【教育およびケア環境の整備】

教育環境や医療機関などの他、視察先の全てにおいて衛生が保たれ、整備されていることに関心を示し、自国へ活用する必要性を感じていた。

### 9) 【医療安全】

日本の医療安全制度が整備されていること、患者および看護者の安全を確保するための管理体制についてあげられていた。

## 3. アクションプランで取り上げられた各研修生のテーマ

研修生は、最終日に日本の母子保健および人材育成の経験から得た知識をふまえ、自国での適用可能性のあるアクションプランを発表した。その概略を表4に示す。

# Ⅴ. 考 察

本調査の結果、本年度の母子保健研修プログラムは、研修生から高い評価を受けていることがわかった。その背景には、研修生のニーズと現職などの属性が関連していると考えられる。研修生8名の出身国であるアフリカは開発途上国の中でも5歳未満の乳幼児死亡率は日本の37倍と報告されており<sup>1)</sup>、研修参加国の抱える母子保健問題は深刻な状況にある。研修生は、自国の母子保健の改善に向けて日本の

表3 研修を通して印象深かった内容および自国での活動に貢献する知識や技術

カテゴリー	研修生の記載内容
母子保健に関する新しい知識や方法	日本の母子保健体制と妊婦健診の実施状況を学んだ
	保健所の役割や乳児健診について新しい情報を得た
	札幌から離れた地方においても同じ医療サービスや看護ケアが提供されていることが印象深かった
	母子保健に関する新しい知識や方法を学んだ
	人々の生命を預かる上で有益な知識を得た
	帰国後に実施する母子保健活動に変化をもたらすツールを得た
助産師の活動の広さと新しい知見	安心して出産できる環境について学んだ
	家庭訪問や電話相談による継続ケアについての知識を得た
	助産師が行う性教育の重要性
	助産師の活動の多様性について興味深かった
	陣痛促進のための足のつぼを初めて学んだ
技術演習の内容と指導方法	住民のための助産師活動について実践的な情報を得た
	実習室で見た学生と教員の練習に向けた取り組み方が参考になる
	学生に対する実習指導法を活用したい
	手洗いの技術
実習計画の作成と指導体制	看護・助産技術の指導方法（2人）
	実習に向けた学内演習の方法
	助産師教育における実習計画とそのフォロー
卒後教育とスタッフ管理	教育機関と実習施設との連携および協力体制（3人）
	実習指導者の育成
	看護スタッフの管理の仕方（2人）
	初めてスタッフ管理の方法を学んだ
看護職の役割および責任	新人看護師の指導方法（2人）
	卒後教育法と評価法（2人）
	現任教育
	人間の健康の重要性を理解
	今まで認識していた保健師の責務以外にも役割があること
障害児に対するチーム支援の有益性	時間の正確さ
	仕事に対する責任感
	患者の意思決定を尊重する姿勢
教育およびケア環境の整備	身体/知的障害者に対する作業療法士の役割
	母子保健に関する作業療法士と理学療法士の活動が非常に有益
	障害児への支援の実際や組織編成が興味深かった
	実習室と講義室の良くなされた整備
医療安全	患者ケアに必要な機材や組織の整備に感心した
	いたるところが清潔だった
	職場の衛生、整備（2人）
	清潔で整頓された職場
	医療安全制度
	医療安全管理（2人）

母子保健サービスの発展から学びたいという強い動機を持っており、かつ学びたい内容としてあげた事項と研修項目が一致していたことが高い評価を受けた一要因であると考えられる。特に、全員が「5：非常に役に立つ」と回答していた研修は、母子保健サービスについて講義と視察の両方から実感できたと同時に、地域の母子保健を守る看護職の幅広い活動を知り、自国に活用出来る可能性を研修生が見出した結果といえる。講義や実習、視察などの複合的アプローチを用いた研修デザインは、先行調査<sup>2)</sup>においてもその有効性が報告されており、今後の研修計画策定においても継

続する必要があると考える。一方、ヒト免疫不全ウイルス（以下、HIV）及び後天性免疫不全症候群（以下、AIDS）の母子の医学的・心理的ケアについては、国連ミレニアム開発目標の1つであり、かつ研修生のニーズとしてあげられているにも関わらず、病院の感染対策で一部触れたのみであった。母子感染の中でもHIV及びAIDSは、アフリカ地域での取り組みが必要不可欠な健康問題であり、次年度の研修項目に取り入れる必須事項と考える。

研修生は、8名全員が病院や地域および教育機関で母子保健サービスに携わっており、卒前・卒後の看護師・助産

表4 研修生のアクションプランの概略

	出身国	テーマ	プランの内容
1	コートジボアール共和国	産前・産後の女性および乳幼児健診の充実	1. 本研修で得た知識について関係者と共有 2. 母親学級を開催し健康診査の必要性の理解向上 3. 啓発活動のための冊子作成
2	コンゴ民主共和国	助産実習教育のための学習モニタリング評価	1. 助産技術演習技術マニュアルの作成 2. 学習モニタリング方法の検討 3. 学生の学習達成状況を評価するための基準作成
3	コンゴ民主共和国	母子の感染予防：手指の殺菌と衛生	1. 本研修で得た知識について病院スタッフと共有 2. 手洗いのトレーニングをスタッフと実施 3. 手洗いおよび消毒に関する基準作成（ケア提供者、妊産褥婦、家族） 4. 衣類や靴の衛生に関する規則の作成 5. 妊産褥婦および家族への啓発活動
4	ギニア共和国	妊産婦の食生活の改善	1. 本研修で得た知識について関係者と共有 2. 戸別訪問による妊産婦の食生活についての啓発活動 3. バランスのとれた食生活についてのワークショップの開催
5	モーリタニア・イスラム共和国	看護および助産基礎教育における技術の統一	1. 本研修で知った技術教育に関する知識について関係者と共有 2. ケア技術統一に対する教員の理解を促進 3. 技術マニュアルの作成 4. 学習状況のモニタリング評価基準の作成
6	モーリタニア・イスラム共和国	看護実習室および教材の整備と活用	1. 学校のスタッフを一同に集め、本研修で得た知識をフィードバック 2. 教育環境を整備する重要性の理解を促進 3. 演習技術の見直しおよび実習室の活用方法の改善
7	ニジェール共和国	母子が生活する環境衛生の整備	1. 本研修で知った技術教育に関する知識について関係者と共有 2. 妊産婦および5歳未満の子どもがいる家庭を戸別訪問し、衛生に関する啓発活動 3. マスメディアを通して啓発キャンペーンを実施
8	ニジェール共和国	乳幼児健診の改善	1. 本研修で知った技術教育に関する知識について関係者と共有 2. 各地区の乳幼児健診実施状況の把握 3. コミュニティーリーダーの啓発 4. 戸別訪問を行い健診の重要性を説明

師の教育に関わっていた。開発途上国の母子保健問題の改善と助産師の知識および技術の向上は密接に関連していることから、本年度は特に看護・助産技術演習や妊婦および乳幼児健診の見学など自国での活動に直接反映できる内容を多く取り入れた。研修生の記述内容では、母子保健や助産ケアに関する知識、技術演習や実習計画、卒後教育とスタッフ管理についての記載が多く、これらの内容が現職における活動に直結するものとして研修生の興味・関心に沿っていたものとする。アフリカ地域の新生児小児保健医療研修成果に関する杉森らの報告<sup>2)</sup>においても研修生の印象深かった事項は本調査と一致する内容が多くあげられているが、卒後教育やチーム医療の有益性についての報告はなかった。開発途上国における現任看護師・助産師教育の必要性についてはいくつか報告<sup>3-4)</sup>があり、出産の安全を確保するための看護・助産技術の向上に関するプログラムは重要である。チーム医療に関して中村<sup>5)</sup>は、国際協力に活かせる日本の知識として母子保健サービスにおける多職種連携をあげている。本研修生のチーム医療の有益性に関する学びは、母子の健康に関する理学療法士および作業療法士の役割と活動についての講義と視察を取り入れた本学ならではの成果であるとする。

本研修では、研修最終日に自国での活動を具体化したアクションプランの作成が達成目標としてあげられている。アクションプランのテーマには、妊産褥婦および乳幼児健診、母子感染予防のための手指の清潔、看護および助産技術演習や実習計画が選択されていた。研修では多くの知識に触れ様々な経験をしたと思われるが、これらの内容が研修生の今後の活動として期待できる可能性を含んでいる。アクションプランの概略をみると、手洗いの技術活用をプランに取り入れた研修生1名以外は、研修を通して得た知識から自国に適用する戦略やどのような看護・助産技術を強化したいと考えているのかなど、プランの具体性にかけるものが多かった。日本の母子保健サービスを各国の事情に合わせて適用するためには、その有用性を関係スタッフに伝達すると共に自国に取り入れる実践的なアクションプランの作成が必要となる。今後は、パレスチナやモロッコにおいて日本の母子健康手帳の普及に成功したプロジェクト報告<sup>6)</sup>などを参考にしながら、研修生の興味関心に焦点を絞り、帰国後の活動に直結するアクションプラン作成に向けた関わりが課題と考える。

先行調査では、開発途上国における現任助産師教育の課題として師長など管理職にあっても助産業務に必要な知識

および技術が不完全な状況が報告されている<sup>4)</sup>。このことから次年度以降の研修では、研修生自身の知識・技術の確認を含め、より正確な知識・技術の獲得に向けた研修生を対象とした技術演習の必要性が示唆された。

本調査は、研修中および研修終了時のアンケート調査により評価を行った結果である。研修評価として研修中の研修生の発言や質問事項を経時的に記録分析することにより、研修生の根本的な関心事が明らかにでき研修の質を向上させる手段の有効性も報告されており<sup>7)</sup>、今後は研修のモニタリング・評価方法を再検討することも課題と考えている。

## VI. ま と め

研修生を対象に行ったアンケート調査より、今年度の研修プログラムはおおむね研修生のニーズに合致しており、研修生にとって短期的なインパクトとして残る研修内容が明らかになった。今後は、HIV及びAIDSに関する知識の充実、看護・助産技術や学生および現任助産師教育方法など日本の母子保健サービスに関する知識や技術を自国に適用するため実践的な具体策の立案をサポートする研修計画にしていく必要がある。今回の調査により、研修の短期的評価としては良好であったが、この成果を研修生の出身国の母子保健改善に反映させることが真の目的であることから、長期的評価として自国での活用状況を把握することが研修後のフォローアップとして重要であり、研修内容や実施方法の見直しにつながると考える。

## 謝 辞

本調査にご協力いただいた研修生の皆様、また本研修を主管されたJICA北海道国際センターのご協力に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 財団法人母子衛生研究会：母子保健の主なる統計。東京，母子保健事業団，2013，p114-120
- 2) 杉林瑞穂，中村安秀，植田紀美子他：「アフリカ新生児・症に保健医療」研修の評価。大阪府立母子保健総合医療センター雑誌26：30-38，2011
- 3) 鈴木江美子，東田吉子，古閑純子他：開発途上国における現任助産師教育の展開に向けた取り組み（第一報）。ペリネイタルケア30(5):84-92，2011
- 4) 鈴木江美子，東田吉子，古閑純子他：開発途上国における現任助産師教育の展開に向けた取り組み（第二報）。ペリネイタルケア30(12):83-92，2011
- 5) 中村安秀：周産期のいのちと健康を守る—産科・助産・小児科の仕事に国境はない。日本周産期・新生児医学会雑誌48(4):795-797，2013
- 6) 池上清子：母子健康手帳とリプロダクティブ・ヘルス。小児科臨床62(5):871-886，2009
- 7) 永井真理，後藤美穂，松本安代他：仏語圏アフリカ諸国を対象とした母子保健集団研修の経験から効果的な研修のあり方を考える(1)—発言記録を利用した研修モニタリング・評価。国際保健医療25(1):47-57，2010